

＜研究会通信＞ 基本研究会の構想と計画

全会員の英知を結集して「協同総合研究」の究明を

協同総研の研究活動は月例で開催される「基本研究会」と各分野ごとの「研究会」（本誌5頁以下参照）とで構成されます。両者ともに研究所の常任理事会で選出された委員で構成する「研究運営委員会」（座長：富沢賢治、角瀬保雄）のもとで方向性と内容が決定され、その成果を毎年6月に予定される研究大会に集約し、「年報」として出版します。一方、事業計画に基づきながら委託研究も進めていきますが、研究会の成果と連動させる方向を早急に定着化させたいものです。

基本研究会の今年度構想

では、その中で本年度の「基本研究会」の構想計画はどのようになっているのでしょうか。「日本の労働者協同組合運動の課題と展望を明らかにし、総合的に協同運動の実践を解明する」ことを今年度の基本テーマにすえたいと考えました。この研究成果を1992年6月の第1回研究大会に集約すると同時に、まとめ・総括部分を「日本の労働者協同組合運動」と題して英文版にし、92年10月東京で行われるICA世界大会に対して提起を行います。この研究活動が来秋までの大きな流れとなっていきます。

内容は次の三つの部門で構成されます。

・第一部「運動の社会的背景」

人間性の危機を含めた人類の危機を直視し、我々の生き方、価値観、文化の根本的な転換の方向として協同の意義を深める。

・第二部「運動の実態」

日本の労働者協同組合運動と協同運動の実践を全般的にとらえ、特に地域づくり・福祉・環境・情報化と労働・農業の分野での究明をすすめる。

・第三部「運動発展のための政策提言」

現代資本主義と破産した国家社会主義を乗り越え、協同経済、協同社会の構想を前進させるために、経済と企業の変革、法制度の構築、労働組合運動との連関、アジア連帯の方向について提起を行う。

研究会は16のテーマで編成

以上の部門は、さらに16のテーマで編成され、各々のテーマでの報告者が決められ、一つ一つの研究会となります。

〔第一部：運動の社会的背景〕

- ① 序 人類の危機と協同の意義
(報告：中西五洲、8月24日終了)
- ② 生き方・価値観の転換の時代と協同
(報告：佐藤和夫、7月27日終了)

- ③ 人間性の危機、教育の危機と協同
- ④ 協同思想史の現段階

〔第二部：運動の実践〕

- ⑤ 日本の協同運動－労働者協同組合、自主生産、ワーカーズコレクティブ、市民事業
- ⑥ 協同組合セクターと地域づくりのネットワーク－生協、農協、中小企業など
- ⑦ 高齢者、障害者の協同と福祉・医療のネットワーク
- ⑧ 環境・エネルギー問題と協同運動
- ⑨ 情報産業と協同運動
- ⑩ 農業問題と協同運動

〔第三部：運動発展のための政策提言〕

- ⑪ 経済構造の民主的転換と労働者協同組合運動
- ⑫ 企業変革と労働者協同組合運動
- ⑬ 労働組合運動と労働者協同組合運動
- ⑭ 労働者協同組合の法制化
- ⑮ アジアの内発的発展と協同のネットワーク

〔総 活〕

- ⑯ 日本の労働者協同組合運動

以上のテーマで、報告者を確定し、日程を定例化させ、来秋まで運営します。内容は『仕事の発見』『協同の発見』で紹介し、必要に応じて報告者による「ディスカッション・ペーパー」の配布も行います。テーマ1の中西報告は次号で内容紹介を行い、テーマ2の佐藤報告は一部加筆して、『仕事の発見』19号に「文化の転換と協同」と題して掲載しました。会員の皆様のご参加を期待しております。

(文責：広瀬謙一)